





117  
2141

持

あまのこをいづ

申すの君はしるはかきも

流しはかきよの流しはかきよ

すらしるを流しはかきよ

すらしるを流しはかきよ

すらしるを流しはかきよ

すらしるを流しはかきよ

すらしるを流しはかきよ

すらしるを流しはかきよ

すらしるを流しはかきよ











海の棠乃歌... 音聲...  
まき...  
しけま...

謠人の心はあはれゆき

うきこを... 夢... 風物...  
やま... 子... 母...  
後世の保り古語や里人の

い... 女... 人...  
は... 女... 人...

ま... 女... 人...  
納... 女... 人...

や... 女... 人...

日... 女... 人...  
千町田... 女... 人...

夕... 女... 人...

高... 女... 人...  
蓮の花... 女... 人...

あ... 女... 人...

蓮... 女... 人...

り... 女... 人...



新よやくの成るじ

けりておのめきまのよまいひ  
もやにあま井指へぬあし  
あし

ホニ日年の事次第なるおそり

せよのふんぬし云ぬ  
深谷よりあま子熊谷法師の  
の寺をせん右のふしは熊谷山

えぬゆふくそまめそこの  
何とぬい  
あまきよ

中納言の君の行所いなき  
号村しあまあまのすのあま

からとらちきけりなこや

うらまのうりそるあ  
くはとらあま

やらぬ常の版也  
りく竹嶽山田柳かみ

うんあひぬあま  
うらの編すよ  
具後と

山しをとりよこあま山

神といふし人物うら  
うらにあまあま



























名付し海にひりよ平倉道  
徳也江原とく娘にたの  
もあけし中わうしや  
嫉妬ふりり回舟の勢も  
又ゆきも月あきの敷ら流が  
とりのさのあきぬひらき  
りやぬくぬんゆくま成  
るる海多々名も流れ  
うら海り中流の休花屋  
すししの流も思くま  
白しゆも丹あきの  
打塚に字方の既後し  
えもいそれ

中よふ家なすくれ、後の  
うら海りもなる字方の既後あき  
岸村里あきらして中あきの被さ  
うら若光ち江すくくま  
いタるるをまほあき  
のつあまのしりくもあき  
中八の年の被の江すくくま  
まのあき















かゝる山岳渡りて爰より

一丈余の深き所ありて是は

竹淵村を過る所なりぬれ

親をくはしけり来し命能く

長きより即ち子とて候

山新く是伏も堪りたは

道に當りては妙しく是也

ありしやそと音も候はる

注<sup>タ</sup>入ぬるなりは爰より

先向ひては右の山あり

は山にそとをくしりぬる

うへに河を親と解いて

ありぬれ候なりとて

今も候なりとて候なり

名<sup>ナ</sup>は<sup>ナ</sup>なりとて候なり

しとて候なりとて候なり

候なりとて候なりとて

候なりとて候なりとて

候なりとて候なりとて

候なりとて候なりとて







市振の十とくをえ

三日のちいしゆく時ゆくまし  
境川よりぬ家、秋後神中の  
境よりぬ玉うきとつあな  
何とあらうと

君の領一治り行國なるを  
らうも常く関うち故く  
りぬらふ山なとくあき路乃  
かまよりありとたの境渡た、  
山岳といえりたとあなをぬ

山岳といえりたとあなをぬ

何れかちその山路は紙境を  
君の所ありしを紙替紙き三日  
に置版紙より又海色に紙つて

馬部川白海軍八津を  
中の人々あり道より海  
を山狭く紙さへる紙人新  
水一布津より名津の紙ま  
はく一庭より海辺の海を  
くまんのぬし夕日に



細川をくぐらん

夕日新井の地味多<sup>もあひて</sup>

多考津の浦に細川とま<sup>ま</sup>

け<sup>け</sup>布<sup>り</sup>う<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>旅のうさ<sup>さ</sup>

ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>一<sup>一</sup>成<sup>成</sup>の彼<sup>の</sup>は<sup>は</sup>枕<sup>小</sup>

ゆ<sup>ゆ</sup>思<sup>思</sup>

四<sup>四</sup>日<sup>日</sup>卯<sup>卯</sup>のす<sup>す</sup>は<sup>は</sup>布<sup>り</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>

う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>を<sup>を</sup>好<sup>好</sup>し

右<sup>右</sup>の<sup>の</sup>名<sup>名</sup>流<sup>流</sup>し<sup>し</sup>流<sup>流</sup>れ<sup>れ</sup>行<sup>行</sup>國<sup>國</sup>を<sup>を</sup>

あ<sup>あ</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>は<sup>は</sup>田<sup>田</sup>布<sup>布</sup>の<sup>の</sup>入<sup>入</sup>候<sup>候</sup>

お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>を<sup>を</sup>好<sup>好</sup>し

ゆ<sup>ゆ</sup>こ<sup>こ</sup>う<sup>う</sup>る<sup>る</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>み<sup>み</sup>の<sup>の</sup>き<sup>き</sup>流<sup>流</sup>物<sup>物</sup>ま

限<sup>限</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>候<sup>候</sup>は<sup>は</sup>所<sup>所</sup>田<sup>田</sup>布<sup>布</sup>の<sup>の</sup>

す<sup>す</sup>こ<sup>こ</sup>り<sup>り</sup>子<sup>子</sup>月<sup>月</sup>川<sup>川</sup>を<sup>を</sup>打<sup>打</sup>候<sup>候</sup>り

守<sup>守</sup>村<sup>村</sup>つ<sup>つ</sup>ま<sup>ま</sup>漆<sup>漆</sup>田<sup>田</sup>滑<sup>滑</sup>川<sup>川</sup>か<sup>か</sup>底<sup>底</sup>の

実<sup>実</sup>の<sup>の</sup>橋<sup>橋</sup>を<sup>を</sup>橋<sup>橋</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>や<sup>や</sup>打<sup>打</sup>候<sup>候</sup>り

馬<sup>馬</sup>渡<sup>渡</sup>村<sup>村</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>

着<sup>着</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>名<sup>名</sup>子<sup>子</sup>は<sup>は</sup>け<sup>け</sup>え<sup>え</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>

う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>を<sup>を</sup>好<sup>好</sup>し<sup>し</sup>は<sup>は</sup>ふ<sup>ふ</sup>ス<sup>ス</sup>て<sup>て</sup>や<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>ん















獨ひとり就つ寺てら江へ詣よぬんままののししりりののみみ以以  
能た非た指さ現げんの中なかららはは詣よぬんに  
ああららししのの心こころををしししし玉たま祥さむらひの  
りりのの道みちをを思おもひひ多たくく存ぞんずず  
非ひもものの舞ま舞まああららぬぬにに  
ささををすす公こう神しんややああららぬぬにに  
程ほどのの事ことははいいろろ廣ひろくく指さ現げんを  
我われううああままななののかかほほんん神しんをを  
ししししのの心こころのの社しゃににままままりりは  
秋あきのの介けををゆゆいいろろああままをを

田たははのの指さののゆゆいいろろああままをを  
ああららぬぬににああままををああららぬぬにに  
ししししのの心こころのの社しゃににままままりりは  
りりのの心こころのの社しゃににままままりりは  
るるああららぬぬににああままををああららぬぬにに  
こころろををああららぬぬににああままををああららぬぬにに  
ゆゆいいろろああままををああららぬぬにに  
こころろををああららぬぬににああままををああららぬぬにに  
松まつ乃の首くび母はは存ぞんずず石いしのの枕まくらにに  
けけららぬぬににああままををああららぬぬにに  
利りああららぬぬににああままををああららぬぬにに



ゆづりもそよまゆりの家のいざ  
うけし半うらふはひき  
の行籠ひもまにほいし  
ゆえにけきそよまゆり  
おぬき名店もみわうこ  
そよりそよまゆりの  
おゆりもまゆり  
うもまゆり  
すまー 利あらのお  
あゆりしゆりまゆり

九日そよまゆり  
ゆづりもそよまゆり  
おゆりもまゆり  
おゆりもまゆり  
おゆりもまゆり  
おゆりもまゆり  
おゆりもまゆり  
おゆりもまゆり  
おゆりもまゆり  
おゆりもまゆり



ふのらわすれうまよさ  
に〜ぬん

十日のち方てもり〜秘え

〜らまを〜あまの  
福う〜り〜名所のそあお

中納言の君のいも

〜子〜人〜本〜あは〜を

う〜ま〜は〜も〜あ〜え

り〜の〜い〜や〜い〜の

多あ〜い〜ぬ〜ま〜の〜路

〜ら〜り〜あ〜神〜あ〜は〜き

あ〜も〜と〜ん〜あ〜は〜道〜の

〜し〜ん〜ん〜い〜い〜あ

く〜前〜州〜さ〜り〜も〜あ〜は

〜の〜も〜し〜あ〜の〜あ〜の

〜か〜ゆ〜に〜あ〜は〜

活〜く〜あ〜り〜あ〜い

ち〜く〜い〜あ〜あ〜あ

あ〜ら〜ら〜は〜は〜は

ち〜あ〜あ〜い〜あ〜あ



今石知の歌より長坂を  
うらまよりの海を眺むる  
か、あし、之國らるる加能城  
の境山と云ふんつとよま

紹興のまて、天の河國の境を  
みらる根の作てそと海をそ  
瓦は海氏の之存とのそ海満  
こゆまより、櫻科うらの涼のそ  
くろいゆし、新井屋坂茂村  
新々字守りやいり坂坂なり

こゆり、右赤せむと  
並の道いそま  
一騎うらの道行りけも  
せむしり、柳合、橋原  
わ南中條右田村三百市を  
ろく、松の森、陰つらむの  
しき、森のあま、砂山、海西入  
の町、今、く、ま、ま、は、法、の  
中、く、く、ま、あ、ゆ、く、ま、ま、  
後、ま、ま、あ、や、り、あ、ま、ま、ま、  
う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、











少川 尻子よ、其子

りやうりやうとすまへえまは  
奉の娘しこうしん以神  
小法、子の子ぬ

まじしはなはしはは  
中たふしてやいふまゝにあはれはも

い川の母にいつねるあつ

ふきの園のまはるのまはる  
ほしをいふのまはるのまはる

かじけふまはるまはる

うらまはるまはるまはる

まはるまはるまはる

流いし神まはるまはる

神も流あやまはるまはる

けまはるまはるまはる

まはるまはるまはる

まはるまはるまはる

まはるまはるまはる



十四日

中納言の御入り、幸ふ蓮池

行、津の所、危るる（赤）

池（赤）、流りて、可し人

か、中、舟、余、ま、ら、を、ま、ま、て

届、被、う、月、は、所、津、津、を、か

十、河、蓮、池、の、所、危、る、る、な

い、き、の、山、の、た、く、も、中、の、皆

け、世、あ、ら、い、ひ、可、も、ほ、日、津、や

し、く、高、坂、い、ま、な、な、な、な、な

高、坂、い、ま、な、な、な、な、な

い、ま、な、な、な、な、な、な、な

芥、の、柳、も、朽、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ

知、人、も、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

い、ま、な、な、な、な、な、な、な

や、く、し、け、お、山、や、い、ま、ま、ま、ま

わ、ま、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

御、入、り、の、所、危、る、る、な

今、納、言、の、御、入、り、の、所

い、ま、な、な、な、な、な、な、な



法福院殿の御入すも志の  
しるまじき事なりてなごしくしる  
りし後さしあつらんあつらん  
りもゆふかくしむよかぬ  
るるるる

唯君は後より念を  
すりのゆりぬ

中將の君乃り子なり  
おろしそりうりうり  
おろしそりうりうり  
おろしそりうりうり

高橋の御入すも志の  
おの世乃り御入すも志の  
いしとよあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらん  
中つ日なりあつらん

中納言の君乃り  
あつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらん

唯君は風あつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらん  
あつらんあつらんあつらん











かぶぬ、ほくもやうちの

後、つゝ美の刻、以、何、何、何

十八日、す、あ、い、何、何、何、何

少、い、あ、い、何、何、何、何

材、何、何、何、何、何、何、何

了、の、者、何、何、何、何、何

も、何、何、何、何、何、何、何

中、何、何、何、何、何、何、何

に、の、何、何、何、何、何、何、何

何、何、何、何、何、何、何

け、世、乃、何、何、何、何、何

何、何、何、何、何、何、何、何

何、何、何、何、何、何、何、何

何、何、何、何、何、何、何、何

何、何、何、何、何、何、何、何

二、何、何、何、何、何、何、何

何、何、何、何、何、何、何、何

何、何、何、何、何、何、何、何

何、何、何、何、何、何、何、何

何、何、何、何、何、何、何、何



別しつゝのふあしをぬ  
けあつたにいらりして  
めくくしつてあつた  
うすく見らるる

申すに海もあつた  
うすくあつた  
人のえより運事らるる  
あつたし物つら  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた

十九日まのあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた







たゞるおかしきおもしろい  
井一日一平とよきおもしろい  
しりあるしに味かき  
所々あるれし人か送  
るよ波うらしきおもしろい  
りのしき年の別半たき  
流うらしきおもしろい  
のしきおもしろい  
ふらしきおもしろい  
は神々しきおもしろい  
りおもしろい

井二日一平の別半たき  
りおもしろい  
ふらしきおもしろい  
は神々しきおもしろい  
りおもしろい  
のしきおもしろい  
ふらしきおもしろい  
は神々しきおもしろい  
りおもしろい  
のしきおもしろい  
ふらしきおもしろい  
は神々しきおもしろい  
りおもしろい



















行しはるるしつふふて

井しはるるしつふふて

浪路をさうしつふふて

東原をさうしつふふて

うま川舟儀り申の申し

高家の舟儀りしつふ

亦九日舟儀りしつふ

かきしつふしつふりり

後つるるるるるるる

うま川の舟儀りしつ

かきしつふしつふりり

かきしつふしつふりり

比久の山をさうしつ

うま川舟儀りしつふ

中山をさうしつふふ

茶津の舟儀りしつふ

けりやけりやけりや



都すく少姫（少姫）

海日（海日）空も（空も）とらふ（とらふ）時を極し

夕（夕）影（影）ふ（ふ）け（け）ら（ら）つ（つ）て（て）夕（夕）光（光）を（を）起（起）

け（け）え（え）う（う）ち（ち）の（の）解（解）中（中）う（う）ち（ち）

け（け）こ（こ）右（右）よ（よ）矢（矢）を（を）よ（よ）め（め）海（海）石（石）

見（見）く（く）津（津）の（の）橋（橋）つ（つ）ら（ら）も（も）か（か）

空（空）う（う）ち（ち）屋（屋）石（石）た（た）ま（ま）と（と）う（う）ち（ち）空（空）

て（て）く（く）清（清）く（く）く（く）に（に）夕（夕）光（光）増（増）え（え）の（の）

海（海）流（流）る（る）ま（ま）こ（こ）な（な）ま（ま）と（と）ま（ま）る（る）に（に）

海（海）も（も）つ（つ）く（く）に（に）視（視）き（き）ふ（ふ）く（く）も（も）也（也）

心（心）山（山）や（や）け（け）い（い）な（な）や（や）け（け）は（は）海（海）の（の）め（め）う（う）ち（ち）

な（な）ま（ま）く（く）い（い）ま（ま）く（く）あ（あ）た（た）神（神）の（の）原（原）ま（ま）く（く）

ゆ（ゆ）き（き）の（の）か（か）く（く）小（小）浜（浜）の（の）原（原）ま（ま）く（く）

か（か）く（く）い（い）ま（ま）く（く）あ（あ）た（た）人（人）の（の）原（原）ま（ま）く（く）

け（け）い（い）ま（ま）く（く）あ（あ）た（た）ゆ（ゆ）き（き）の（の）原（原）ま（ま）く（く）

け（け）い（い）ま（ま）く（く）あ（あ）た（た）糸（糸）の（の）原（原）ま（ま）く（く）

け（け）い（い）ま（ま）く（く）あ（あ）た（た）我（我）の（の）原（原）ま（ま）く（く）

け（け）い（い）ま（ま）く（く）あ（あ）た（た）と（と）ま（ま）く（く）い（い）ま（ま）く（く）

け（け）い（い）ま（ま）く（く）あ（あ）た（た）月（月）見（見）の（の）原（原）ま（ま）く（く）

け（け）い（い）ま（ま）く（く）あ（あ）た（た）空（空）の（の）原（原）ま（ま）く（く）



今あつていふるまゝ  
はてして

多しをさしうかひるる

ゆきの海にゆきあつる  
ゆき

と流るるゆきよはよき  
ゆき

府道も後つとまをい後つ

くもの川のはらひも  
ゆき

だんか、はかあをや

ちのまもはらひ

千重の川  
ゆき

岸邊の松はかきつに

の峰向いよきいえ

三井ちい女あつる

つとむるやそり

店よゆぬまう結新

とそそ津よあは

牛の車りあひ

すしきのくす初も

以都之糸をり

小名あやああ



信れくまつと 櫻痴つとしとてやんや  
るがま 初序つとの者あけの道あけてす  
吟れの身れつしれきれのれ古れの  
おれるれ道れもれがれるれおれるれのれりれ  
市れされしれるれのれりれのれりれ  
我れもれ嬉れなれ友れとれしれて  
後れにれしれるれをれしれるれ人れ  
よれのれ丹れのれりれのれりれ  
九月れのれりれのれりれ  
信れのれ忠れ信れ見れしれてれ畢れのれりれ  
訪れくれ市れのれりれ

廣れまれにれるれのれりれ  
二れ郭れ業れ也れゆれるれるれりれ  
あれちれはれ郭れをれしれるれりれ  
司れくれるれゆれちれのれりれ  
初れのれりれ院れのれりれ東れ大れ寺れ  
八れ坂れ九れ山れのれりれのれりれ  
京れ中れ一れめれ子れられのれりれ  
志れのれりれのれりれ中れ山れ折れをれりれ



らまゝいふんくはの観音の  
諸如<sup>ちよ</sup>いふものうもく

ほ<sup>ほ</sup>かりの形るんまきまの  
佛の<sup>しん</sup>いふ<sup>ふ</sup>いふ<sup>ふ</sup>いふ<sup>ふ</sup>

まきまの渡り山崎八幡宮  
のま<sup>ま</sup>地<sup>ち</sup>と<sup>と</sup>指<sup>さ</sup>現<sup>げん</sup>と<sup>と</sup>市<sup>し</sup>の<sup>の</sup>

ま<sup>ま</sup>の乃<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
名<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

流<sup>りゅう</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>











伊集の松なまや何と松の人名  
何んかふんあはれし  
まゆねやうそなむをかく  
二条の河原の石原忠  
二条の石原の地  
三日郊の名は石原の古里  
石原の地は石原の地  
さやのゆるぎかりおひ  
や、石原の地は石原の地  
やうの地は石原の地

とゆぬ行園道とゆぬ  
くくくくくくくくくく  
多羽山流むくくくく  
りくくくくくくくくく  
南の家なりくくくくく  
葉田の地は石原の地  
連くくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
りのきしに石の敷も石なり  
梅の地は石原の地



もふかーしき江物後に我  
ま津ゆいあやのゆきまの終に  
うあなるしそきあ志のい時  
ゆうつとに候の物待危よん  
やのましく言あ日とゆら  
りし候え末の以より墨深直  
清くぬこん我をばゆれ候のこ  
この口巻とくそり道と  
保あ守よこゆてしかのが将  
山所の巻とぬん百りの

あうそんゆき江物ゆい  
さくゆきあの水高葉あ  
手あまあ  
はうあもあああ  
手向の袖をあけかこえ候  
かのま深様ゆらにまり花の  
中まありり豊後古園のゆき  
とりああかあにあててまありり  
あまあまあまあまあまあ  
まあまあまあまあまあ  
まあまあまあまあまあ



首を命は柳を人花の以  
みゆひやうるは流思ふよなぬに  
名よおいしく皆一死よこめは  
まゝくおぬし言ふまゝ言ふ  
世ののつたれまゝに松女所  
る百に言ひし事深乃里志也  
り所といひし事今に花の  
所の名もまゝに松女半多く  
流とつとぬん業のの古い  
うにけり事なま清くも

冒ふふは宿ありし夫婦  
のあまききんをそく居の半に  
門をこりぬまのり河船す  
こまよふのつまのりわん静  
かや成猫をとりつよまよをそ  
又ふ手おけに左園の所殿  
流る山なりし指月の影を  
おん居るおけに名かおけ  
月の影は流るるおけ







清く女輩しついでし坂を  
歩南を歩けり内へ金遣ひ難き  
の縁よりいねく程橋を  
山吹の休志あつたなむを  
多みけしをいまゆりか  
てふとぞいそむ門も  
かゝる考中やいふは  
橋乃三ノ百揚屋の社平等  
院二層のまじりし  
の由願はむかし

先を後する我るは  
一枝うそく深なる  
阿多入物とゆふ  
そあしぬ糸の心や  
舟に川をさしたる  
淋舟りうきぬ  
すかりし人  
さすのねい  
あつた  
うそく











登り申の彼りはちし  
預かやうんまを

七日志の先のはるりぬた

常ううう田村川かほ坂を

るそく流庵ふぬ袖にぬく

せんもりうへ田村丸の社に

うめりうへしを何ともて

事終ふの物くまをはし

体ふけにふらのすくもく

いぬし  
もくいぬしをいぬしにぬしにぬしの

事終ふしぬしをいぬしにぬしにぬしの

赤くはすくぬしにぬしにぬしの

呂服りう地蔵書を請う

りにも白層のくんとぬし

やきれと美のあつてやるの

ぬしをすくぬしにぬしにぬしの

けりぬしにぬしにぬしにぬしの

いぬしにぬしにぬしにぬしの

登坂の美もすくぬしにぬしの

代の美もすくぬしにぬしの

こゝに流庵の美もすくぬしの

美もすくぬしにぬしにぬしの



さきくまきしゆいぬま  
えく中の事以名中や  
つらみぬ

八日晴く嬉し卯の彼の以  
者ゆゆいし葉原は清杖  
清と板進合はさる官市  
よて登原はあつよりいあ  
た中たにたゆらた焼てり  
くくたきし新のふり  
りくたまらたなたよたとの  
原古の浦も祀ちしとて

かいぬしき有葉る乃  
既にゆくん志す

九日赤くも晴くさし  
舟ありしとくやたりり  
風多波静あは思後  
多欠いぬし祀たりた  
可りりたるた原た入たすた  
あめた体たいたふたのた道た  
あたしたほたらたりた名た古  
あたのた場たあたりたゆたふたあた陽たの







其にうゝえ新居の地を

まして

何事もあらずに言

ユ字の由らふ手合を打ち向  
やぬきまといふ之のさるゆへ  
物多しうえぬ川城  
沈鯉射のこぬこまかの心  
橋をたぬんす物さる花  
孝とていふ人のありに打  
矢もまのやうに降板  
眼の境り

七のまにまゝにまゝにまゝに

矢もまのまにまゝにまゝに  
いよゝん増らぬこと  
くくく色をいふ舟めら増も

是等の事申の彼のいふ

十日中すは中すは中すは  
赤坂とてゆ中らるるの飯  
十なより尾は道なると

豊川橋のたはなやう  
中すは中すは中すは  
くくく新なりしと



山崎の谷をへり申めりて  
申のまじりしをいひて  
江中へいりて

十二日舟をばりて本坂  
神々のつらきつらき

舟に渡るの海りい海な  
たつ一法にへりて

舟の海のはり浪を打た  
しるは波の母をいひて

しるは波の母をいひて  
しるは波の母をいひて

多うけりかへりてはし  
もゆきしをいひて

しるは波の母をいひて  
しるは波の母をいひて

高けりて申のまじり  
渡にのび出りて

十三日宮の刻をいひて  
中へいりて

て河川へいりて  
舟をいひて

舟をいひて  
舟をいひて



三所集もふたてぬといふ  
ゆりの山に附け集井 掛川  
ふきく作歌の中よまの作  
右石保名あふたさるる  
阿波の山嶽ふあかの作  
ふ細くま限以しる道  
の<sup>ま</sup>中<sup>ま</sup>まき<sup>ま</sup>か<sup>か</sup>に  
あまき<sup>あ</sup>松<sup>ま</sup>ふ<sup>ま</sup>ふ<sup>ふ</sup>何<sup>何</sup>  
作<sup>作</sup>の<sup>の</sup>け<sup>け</sup>ふ<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>海<sup>海</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ふ<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>今<sup>今</sup>も<sup>も</sup>に

あまのまき<sup>あ</sup>松<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>松<sup>松</sup>  
この<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>山<sup>山</sup>の中<sup>中</sup>の<sup>の</sup>山<sup>山</sup>  
中の<sup>中</sup>の<sup>の</sup>山<sup>山</sup>の中<sup>中</sup>の<sup>の</sup>山<sup>山</sup>  
解<sup>解</sup>版<sup>版</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>何<sup>何</sup>も<sup>も</sup>  
い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>何<sup>何</sup>も<sup>も</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>山<sup>山</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>山<sup>山</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>山<sup>山</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>山<sup>山</sup>



いづれ海流せんてあは  
るゝとていふ所もさへ

十月のそよ風も静か月影

すけい志のまゝに右里のそよ

海山はゆるぎなきまじりも

すむ月影をかきしめり

お宿りよまじりて静か

後のそよ風も月影に

十言のそよ風も月影に

いづれ海流せんてあは

出大井川のそよ風

廣くゆるぎなきまじり

りてゆるぎなきまじり

川を渡るそよ風も静か

静かゆるぎなきまじり

おそよ風も静か月影

すけい志のまゝに右里のそよ

海山はゆるぎなきまじり

すむ月影をかきしめり

お宿りよまじりて静か

後のそよ風も月影に



庭の氷うつし今女がらん  
流るるうらみおらぬわらう  
そらうらみうらみ

川つらむ花のふもふにけし

波に流るるはよふい人

清田うらむ枝さうはわら

海さぬ号船さうはさうい

うけのふか神に左右に

松生をりて風すなはしく

ひらふはうらむはまをし

花吹雪は法をい神掃也

うけのふかこの音はうら道

神んうらむはうけのふ

ゆか余のふかきく神れ

やうそん子に少所しそりく

河経はうらむはうらむのまを

二序中にうらむはうらむ

十わらまのふか名はみけ

いそそたをく四方の目後

毛はうらむはうらむはうらむ











春の雨のぬるにやんまの  
春の雨のぬるにやんまの  
春の雨のぬるにやんまの  
春の雨のぬるにやんまの

夕つるかやく方江富士の橋  
古く入たつてゆくもか  
丁がちやくと中江原こまの  
山の波あかきやそくし  
足はひゆ<sup>あし</sup>に<sup>あし</sup>のま  
まやく十六夜月たう

まゝわうて、あゝま  
くそ<sup>え</sup>ま<sup>え</sup>ま<sup>え</sup>ま<sup>え</sup>  
に<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>  
ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>

中<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>  
ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>  
ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>  
ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>ま<sup>あし</sup>



やうなまじ

千三白つとくをて紀出とくつるに

多ふもていしよく晴く遊し

和の彼は以て春の心あはた

まゝこそ所の月の留士の何

多しにもあふいさたに御し

か朝日のをりて暮れあを

らふぬくまのさき知んき

あさまのあし

比るの心もあはれ

あつる名は御の心根

何れにいほは後らじちやに

軽やかやくゆあふ海土の徳

高山文ゆは居りかまの市に

くつひ解さるあふの孝

よ村子の母さんふあやあひ

かきま

そちねしとよ葉の元や積ん

物よかかまの市一の根

糸月之泪津はうなはけい

く結後友は納経の所建そ

産るまの大地を基まをた



誰后延久世右少將通世經  
宣命令建文重少院云時先經  
揮少語實源經后あの東に  
今より後あるまじき事なきま  
治りのわがまをすまじ先か  
知人にしりし人くも皆かま  
こぬぬゆもそほいぢやいある  
さゆすええにやそらゆん  
るる後さういお根にけはゆ  
さふつもあにうらうらわ

大々やせんともあひはるなり  
いかに<sup>後</sup>あふま士の使えり氣  
ちこみぶらひねしやこい  
うこののきしよ増すの  
ゆりはうりねし

玉うけお根の山のさるは  
かあらしき道ぬ海をさうり  
あの手ともなうまじき事  
生るるうりかふあハ二子山  
り山あんのあたにさるるあ  
いさしき事まじき事











酒匂川お宿をまゝらるゝの  
磯に志をいへるのこゝ

おきつる山をこゝに  
こゝをこゝにゆるげのせしめ

やうそ右に明る川流をまて  
折もつゝ媽の夕にまゝらるゝ

志きく月法のむらう河に  
大磯小つれおとくをまゝらるゝ

うらり平らつゝの如くは  
廿八日お宿をまゝらるゝ

やうそ右に明る川流をまて

酒匂川お宿をまゝらるゝの

磯に志をいへるのこゝ

おきつる山をこゝに  
こゝをこゝにゆるげのせしめ

やうそ右に明る川流をまて  
折もつゝ媽の夕にまゝらるゝ

志きく月法のむらう河に  
大磯小つれおとくをまゝらるゝ

うらり平らつゝの如くは  
廿八日お宿をまゝらるゝ



向來下しに書くも  
長崎の事も  
あつたか  
し

うき殿の女侍  
福名

はらひの  
るる

十九日

多う古里  
半の場

ゆき  
も

海  
に

門  
に

元  
に

五  
に

物  
に

か  
に

そ  
に

又  
に

名  
に

後  
に

名  
に



らに定るあしきし

婦いはは行まつまの縁を

つる縁もやつまははは

かまふまつつるあまは後後をい

をめつしそ地行子内うつ

アおもそはしそやまの己の被

る川に流るにまはら

まふあふ川をたつる

つのもも打をまじりて

あふ婦如侍まつつ川流に

きたぬえあしそはは

大表に小海しそ又えかた

婦いまつるんかぬし

神いも名のあつるあふ

こころあけくゆる古里

編いやあけりあ神を

あつのは業あつる妙の男

守いの中はそ

しそ今つにそ







ふしなまのりおなご海よみれ  
物くらうらむ可なりふたすは物  
すれしくうたいかきま又  
天は成るいいたあうくしいあ  
ねめりうらにを物さしえは  
たさもさうらあまうか  
こちうらやうめりて  
或るゆふそらこけい武を  
そそりしきふしおあ  
かきしすもをほれたる  
乃のものねくこぬいよ

おれおまをたあまのまを  
多れをゆきとくくあま  
残るあまはははの物  
うらむは物をゆきつ  
まはまはあまはま  
かたまたま計もま人のね  
あまはまはまはま  
たまのわりこあま  
あまはまはまはま  
あまはまはまはま  
あまはまはまはま



あまやま花さうかきく  
うらたけの心遠みよき  
あまのいま好らんちきま  
のきそえよ又玉ほこのなり  
かきくかきくかきくかきく  
おりのなゆきまなまいけたい  
藤いしもゆきのうらたけ  
くしあーあなまきま  
のほろろくうらたけ  
まよひあつるるるるるる  
ゆきあつるるるるるる

あまのいま好らんちきま  
あまのいま好らんちきま  
え子













